茨城の天然記念物MAP ～茨城の自然を知る～

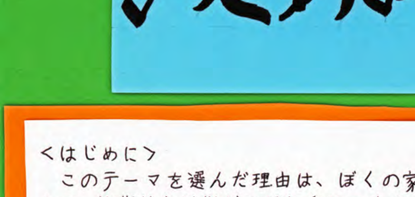
茨城大学教育学部附属小学校
4年 中澤 理久

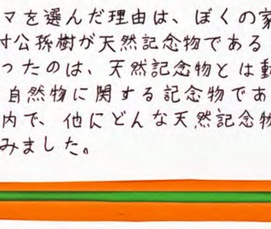
＜はじめに＞
このテーマを選んだ理由は、ぼくの家が水戸八幡宮の近くで、お葉付公孫樹が天然記念物であると知ったからです。調べて分かったのは、天然記念物とは動物、植物、地質・鉱物などの自然物に関する記念物であるということでした。茨城県内で、他にどんな天然記念物があるのか、実際に調査してみました。

＜調査方法＞
・天然記念物について、本や茨城県ＨＰで調べる。
・国指定天然記念物、県指定天然記念物のそれぞれの場所を調べる。
・国指定天然記念物は実際に行って、周辺の状況を調べ、写真を撮る。
・本やインターネットからその天然記念物について詳細を調べる。
・天然記念物について、茨城県教育庁 総務企画部 文化課へインタビューをする。

天然記念物とは
天然記念物とは、学術上貴重で日本の自然を記念するものとして指定された動物、植物、地質・鉱物、天然保護区域のことで、例えば、カモシカやカワウソなども天然記念物の一つです。

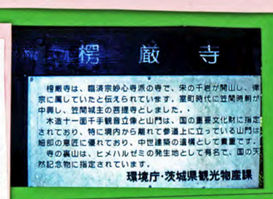
安良川の爺杉
安良川の爺杉は県内最大級の杉とされていて、安良川八幡宮境内にあります。大正１３年に国指定の天然記念物に指定されました。樹高約４０m、幹周り１０m、樹齢は約１０００年です。昔の子供の間では、「息を止めて爺杉の周りを３周すると、白蛇が現れ、願い事が叶う」といわれていました。しかし、落雷が主な原因と見られる樹勢衰退のため、現在の爺スギは、倒木を防ぐために幹の３方にワイヤを張って固定されています。さらに、国・県・市によって幹の先端部１０mの切除もされています。安良川八幡宮の御朱印は、銀色の蛇が杉に巻き付いていて、金色で文字が書かれたとてもかっこいいものです。御朱印を集めている人は是非行ってみて下さい。





奥久慈軍鶏
軍鶏は闘鶏で使われるほど闘争本能の強い鶏なので、肉質の締まりが良く、美味しさが凝縮されています。全国特種鶏（地鶏）卵の品評会で第１位に選ばれたこともあります。しゃもという名前はシャム（現在のタイ）から輸入されたニワトリの品種であることが由来です。奥久慈軍鶏は、「軍鶏」・「名古屋コーチン」・「ロードアイランドレッド」を組み合わせているそうです。食べ方としては、【しゃも弁当】【しゃも鍋】【しゃも丼】【しゃもの唐揚げ】【しゃもラーメン】などの食べ方があります。喧嘩をさせずに運動させ、弱い鶏は２～３羽一緒に隔離してストレスを解消させている上、百日以上育てているので手間がかかるそうです。奥久慈軍鶏生産組合に、取材にいきました。軍鶏肉はとてもおいしかったです。

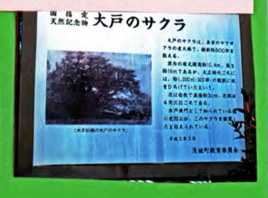
片庇ヒメハルゼミ発生地
楞厳寺境内とその周辺が登録されています。ヒメハルゼミの他にも県内で稀な植物や昆虫がみられるところです。ヒメハルゼミは主に裏山にいるそうで、体長２－３.５cmだそうです。７月中旬に多く、楞厳寺境内にはほかにも木造十一面千手観音立像や山門などの重要文化財がたくさんあります。僕も、ヒメハルゼミを探しましたが、見つけることは難しいと看板に書かれていた通り、見つけることはできませんでした。残念。



イブキ山イブキ樹叢
イブキは、ヒノキ科の常緑樹で標高２～３mの海岸から標高５００mの潮風のあたる場所に分布しています。生育地は、年平均気温が１０～１７度の間と温暖で、夏季に降水量の多い地域です。指定理由としては、自然分布北限に近く、かなりまとまった本数の樹叢があるからです。いまは、丘の南側に３本、北側に５本の計８本がありますが、昔は鬱蒼としたイブキ林だったそうで、推定樹齢は４００年くらいです。ここに樹叢となっているこの地域は大正１１年（１９２２年）に天然記念物として指定されました。車での行き方が複雑で、しかも、砂場の足元が崩れて大変でした。皆さんも、行く時は気をつけてください。

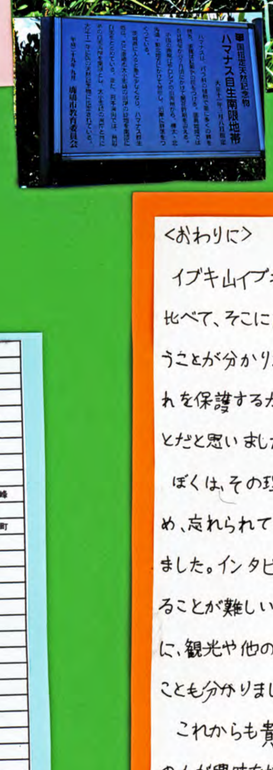
白旗山八幡宮（水戸八幡宮）の御葉付公孫樹
この御葉付公孫樹は御葉付公孫樹の中では大きさが最大級で、樹齢は約４００－８００年程度、樹高４２m、幹回り９mです。実が葉の上にできるものが１割程度あるので、御葉付公孫樹という名前になりました。遣唐使が持ち帰ったといわれており、学術上有益なものとして、昭和４年に国指定の天然記念物に登録されました。写真にも写りきらないくらい大きかったです。紅葉の時期に行くときれいです。

大戸のサクラ
大戸のサクラは、シロヤマザクラという種類のヤマザクラです。ヤマザクラの中では大きく、大正初期には１０００㎥もあったそうです。現在では、樹齢は５００年程度、樹高１５m、幹周り７mとなっています。花は直径３cmで、白色。花期は４月下旬頃です。水戸光圀公も鑑賞されたといわれており、昭和７年に国指定の天然記念物に指定されました。車で行くのは、少し行きづらかったですが、周辺は手入れされていました。



桜川のサクラ
桜川のサクラは、吉野に次いで名高かったといわれていました。シロヤマザクラが中心で枝垂桜、桜川匂など、十一種類の桜が植わっており、どれも貴重種です。平安時代には桜川の評判は平安京まで知れ渡っていました。そして、江戸時代には水戸光圀公が桜川磯部稲村神社のサクラを気に入って偕楽園前の川に移植され、その川は今も桜川と呼ばれています。さらに、明治時代には能人石倉翠葉や、三好学博士による研究・出版活動がされました。大正１３年に国の名勝指定をうけ、昭和４９年に国の天然記念物に指定を受けるにいたりました。春には桜川の桜まつりが開かれているそうなので、行ってみたいです。

ハマナス自生南限地帯（太平洋側）
ハマナスとは、バラ科の植物で茎にとげを持っていて、紅紫色の花をつける植物で、寒い地域に自生します。日本では、主に北海道・東北地方の沿岸に群落していて、開花時期は、５月上旬から７月頃までです。茨城県に入ると急に少なくなり、鹿嶋市大小志崎は、太平洋側の南限で、日本海側の南限は鳥取県の白兎海岸です。ハマナスは花が美しいだけでなく、花びらを日陰に干すと香りが長く保たれ、実を食べることもできるほか、根は薬や染料として用いることができるため、採取されて自生地が減少傾向にありました。最近は、指定地の周辺環境が変化し、昔より株数がやや少なくなってきています。僕が実際に行ってみたら、手入れがほとんどされてなく、ハマナスは、雑草に侵食され、５株程度しか見えなかったのでがっかりしました。



国指定天然記念物(植物)…
国 指定天然記念物(動物)…
県指定天然記念物(植物)…
県指定天然記念物(動物)…
県 指定天然記念物 (地質・鉱物)…

茨城県の天然記念物について調べるうちに、いくつか疑問が浮かんできました。それについて、茨城県教育庁総務企画部文化課の田村さんに電話で答えてもらえました。

Q1. 天然記念物は、誰がどのように管理しているのですか。
A1. 所在地である各市町村の教育委員会が管理しています。また、個人の所有の場合には、その家の方が管理している場合もあります。詳細は、所在地の教育委員会に訊くと分かります。

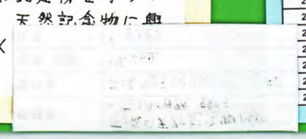
Q2. 国指定と県指定の違いはなんですか。
A2. 国指定は、国がとても貴重で大切にしようと指定したもので、県指定は、同じように県が指定したものです。国が決めているか県が決めているかの違いです。他に、各市町村が定めた天然記念物もあります。

Q3. 天然記念物は登録が古いものばかりですが、新しく登録されることはないのですか。
A3. 新たに天然記念物を指定する時、色々な専門家の先生などが調査し、データを集めてそれが天然記念物となりうるかを決めます。そのデータを集めるのに時間がかかったり、貴重であるという理由自体が出てこないことがあります。今のところ、平成十七年で登録は止まってしまっており、今後登録できるものがあるか調べてはいますが、あまり出てきていません。

Q4. 天然記念物を観光に利用しないのでしょうか。
A4. 天然記念物を含む文化財は、文化財保護法の第一条に保存と活用を図る旨が書かれており観光が大事なため、観光に使えるような形で、市町村とも協力して考えてはいます。しかし、天然記念物の所在地は山の中や寺社の裏など近づくのが難しい場所が多いです。ただ、観光目的以外に活用されている場合もあります。例えば、県指定の真鍋のサクラは小学校の中にあり、毎年桜の時期になると、6年生が1年生に桜を見せてあげるという形で活用されています。他にも色々な活用法があるので、所在地の教育委員会に訊いてみると教えてもらえるかと思います。

Q5. 登録前よりも株数が減っていると書かれている天然記念物があったのですが、そういったものは人の手で増やせないのでしょうか。
A5. 今は温暖化など気候が変わっていて、当時よりも減っているものは確かにあります。国や県でも、「樹勢回復事業」という形であまりに減少が顕著な場合には、整えたり増やしたりもしています。ただ、様々な事情を鑑みると、なかなか全てを実現できません。県や国でも予算が許す限りは実現しようと考えており、貴重な天然記念物を守っていけるように努めています。これからも、天然記念物に興味を持って、大事にしていこうと考えてください。

No.	名称	所在地	No.	名称	所在地
1	鉾スギ	久慈郡大子町下野宮	30	お葉付イチョウ	鉾田市中居
2	三浦杉	常陸大宮市小田野	31	八重の藤	笠間市笠間
3	香掛の大ケヤキ	坂東市香掛	32	御岩山の三本スギ	日立市入四間町
4	八代の大シイ	潮来市上戸	33	西金砂のイチョウ	常陸太田市上宮河内町
5	金砂山の大ヒイラギ	ひたちなか市磯口	34	西金砂のサワラ	常陸太田市上宮河内町
6	花園山シャクナゲ群落	北茨城市華川町	35	駒つなぎのイチョウ	日立市大久保町
7	鏡岩	常陸大宮市照山	36	香仙寺のシイ	常陸太田市松栄町
8	球状花崗岩	石岡市吉生	37	若宮八幡宮のケヤキ	常陸太田市宮本町
9	地蔵ケヤキ	取手市下高井	38	真弓神社の銘杉	常陸太田市真弓町陣ケ峰
10	静のムクノキ	那珂市静	39	ウチワサボテン群生地	神栖市大字太田
11	佐久の大杉	石岡市佐久	40	モチノキ	常陸太田市大字天下野町
12	龍ヶ崎のシダレザクラ	龍ヶ崎市根町	41	大塚神社のスギ	高萩市下君田
13	真鍋のサクラ	土浦市真鍋	42	大塚神社のモミ	高萩市下君田
14	亀城のシイ	土浦市中央	43	不動院のカヤ	那珂市菅谷
15	ウミウ渡来地	日立市川尻町	44	菅谷のカヤ	那珂市菅谷
16	平磯白亜紀層	ひたちなか市平磯海岸	45	菅谷のモチノキ	那珂市菅谷
17	小高のカヤ	行方市小高	46	暉のグミ	稲敷郡阿見町暉
18	出島のシイ	かすみがうら市下軽部	47	泉福寺のシダレザクラ	常陸太田市大中町
19	花園のスズギ	北茨城市華川町	48	ボダイジュ	古河市仁連
20	花園のコウヤマキ	北茨城市華川町	49	イチイガシ	古河市恩名
21	波崎の大タブ	神栖市波崎	50	椎尾山薬王院の樹叢	桜川市真壁町椎尾
22	無量寿寺のボタイジュ	鉾田市鳥栖	51	七反のシダレザクラ	常陸太田市里川町
23	お葉付イチョウ	東茨城郡大洗町大貫町	52	猿喰のケヤキ	常陸太田市徳田町
24	大穂のウメ	つくば市吉沼	53	鷲子山上神社のカヤ	常陸大宮市鷲子
25	鹿島神宮樹叢	鹿嶋市宮中	54	松岩寺のヤマザクラ	高萩市下君田
26	下横場の大グミ	つくば市下横場	55	稲田禅房のお葉付イチョウ	笠間市稲田
27	西蓮寺の大イチョウ	行方市西蓮寺	56	文武館跡のケヤキ	大子町大字大子554
28	潮来の大ケヤキ	潮来市潮来	57	酒列磯前神社の樹叢	ひたちなか市磯崎町
29	大生神社の樹叢	潮来市大生	58	外大野のシダレザクラ	大子町外大野1312



＜おわりに＞
イブキ山イブキ樹叢やハマナス自生南限地帯など、登録前に比べて、そこに自生する株数が減っている天然記念物もあるということが分かりました。天然記念物は守りたいものがあるから、それを保護するために、登録しているはずなのに、これは残念なことだと思いました。
ぼくは、その理由を考えました。昔に登録されたものが多いため、忘れられていたり、行き届いてなかったりしているのだと思いました。インタビューの結果、予算や様々な理由で全てに対応することが難しいということが分かりました。けれども、それと同時に、観光や他の形で活用することで守っていこうと努力していることも分かりました。
これからも貴重な天然記念物を保護するためには、たくさんの人が興味を持ち、知っていくことが大切だと思います。ぼくも今回調べたことを広めていきたいです。